

平成27年度（2015年度）セタシジミ資源概況調査

石崎大介・磯田能年

1. 目的

近年、セタシジミの漁獲量は100トンを下回っており、セタシジミ資源の現状とその動向を把握し、適正な資源管理や効果的な栽培漁業推進を行う必要がある。その基礎資料を得るため、1997年から産卵期前にあたる5～7月に実際の漁具を用いて調査を行っている。

2. 方法

2015年5月31日、6月1日に琵琶湖北湖のセタシジミ主要7漁場（表1※）を含む17漁場において、実際のシジミ漁業で用いられる漁船および貝桁網（開口幅約140cm、網目3cm）を用いて調査した。またGPS記録から過去の調査地点と同一箇所を実施した。各漁場において1分間ないし2分間曳網し、採捕したセタシジミの個体数、重量、殻長を記録した。そして、GPSの軌跡記録から曳網面積を求め、単位面積あたりの採捕量を計算し、生息密度とした。主要7漁場については3回曳網し平均生息密度を算出した。

3. 結果

主要漁場の生息密度は平均0.46個体/m²であり2014年より減少した（図1）。また殻長18mm以上の平均生息密度は0.26個体/m²であり非常に低水準となっている。漁場別では今西漁場が増加した以外は減少した（図2）。主要漁場以外の生息密度は高島漁場で1.29個体/m²と比較的高かったが、それ以外の漁場では1個体/m²を下回っており、資源水準は低いものと思われる（表1）。2012年の産卵期には非常に低い肥満度が観察され、再生産が低調となったと考えられることから、その影響が表れたものと考えられる。よって、資源管理の取り組みを継続するとともに、今後の資源状況に注意が必要である。

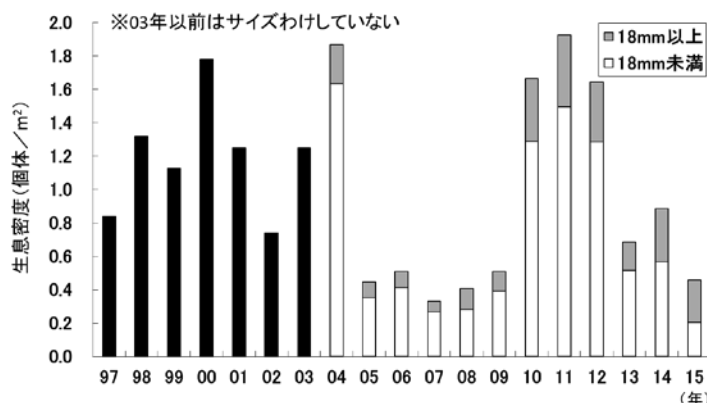


図1. 主要漁場における生息密度の推移

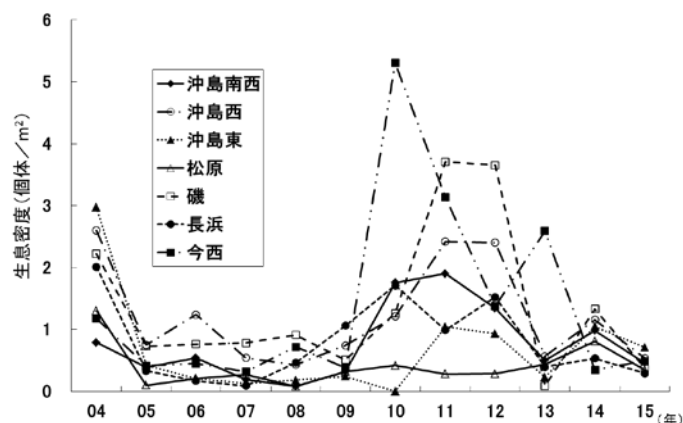


図2. 各主要漁場におけるセタシジミ生息密度の推移

表1. 各調査地点におけるシジミの生息密度(主要漁場は平均)

地点	個体数	曳網面積(m ²)	密度(個体/m ²)
菖蒲	0	399	0.00
牧	39	369	0.11
沖島南西※	92	194	0.46
沖島西※	114	235	0.54
沖島東※	164	227	0.71
新海	39	445	0.09
石寺	49	421	0.12
松原※	79	234	0.35
磯※	84	225	0.38
長浜※	67	237	0.29
今西※	99	225	0.49
海津	190	498	0.38
針江	98	440	0.22
高島	570	443	1.29
鴨川	53	437	0.12
近江舞子	223	428	0.52
大浦	166	232	0.72
平均			0.40